



[西山さんから頂いた食用菊です]

# 講習会だより

Extra number(7) 2013/11/22

## 1. 今回は前回の10月までのボタンの手入れに続き、11月以降の管理についてお知らせします。

○前回は新しい芽に通風と日差しが届くように、10月までには葉刈りをするようお勧めしました。今回は寒さに向かっての11月から2月中旬までの作業と管理ポイントについてご説明いたします。

○ボタンはシャクヤクの台木に接ぎ木したものがほとんどです、地上部のボタンは木本植物のため耐寒性は強いのですが、接ぎ木部が露出していると自根が発根せず、またシャクヤクは草本植物ですので台木が露出していると凍害を受けます。このためボタンの部分に土が被るように「土寄せ」をしてこれからの寒さをしのぎ翌春からのボタン自らの発根を促します。(資-1)・(資-2)

○さらに株元には敷き藁などでマルチングを行なうとともに積雪対策として支柱を立てますが、直接結びと擦れて木が痛みますので、2~3回撚ってから留める「より結び」にします(資-3)。

○このように対策をたてておけば2月頃まで、乾いた時に水やりをする程度で手間はかかりません。



[資-1]土が流れ台木が露出しています



[資-2]土寄せをしてボタンまで覆います



[資-3]支柱に直接留めないようにします

## 2. 市川の西山喜子さんから頂いた食用菊のご紹介です。

○一昨年4月の講習会の際、皆さんと一緒に頂いた食用菊の苗が、たくさん増え立派に育っています。昨年は芽切りをして花数を増やしました。今年は手をかけず自然に育てたところ、夏場からの異常気象で下部の葉枯れが多かったせいか花が一回り小ぶりのようでしたが、次々に育ち6~7回も収穫できます。食用菊は山形の「もってのほか」と呼ばれる紫色の延命楽が有名ですが、この青森の「黄もって」と云われる阿房宮も絶品です。花びらだけとって蒸すか少々酢を加え軽く茹でて干し菊にし、ジップ付きビニ袋で冷凍庫に保管すると年中食するができます、菊なますはもとより煮物に散らすなどでも美味ですよ。

